

評価対象年度	平成19年度
--------	--------

## 施策評価シート

政策	2	施策	5
----	---	----	---

施策名	5 地域が潤う、訪れよしの観光王国みやぎの実現
-----	-------------------------

施策担当部局	経済商工観光部、総務部、農林水産部
--------	-------------------

「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	2 観光資源、知的資産を活用した商業・サービス産業の強化
-------------------	-----	------------------------------

評価担当部局 (作成担当課)	経済商工観光部 (観光課)
-------------------	------------------

<b>施策の目的 (目標とする宮城の姿)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宮城の魅力が絶え間なく国内外に発信され、観光地みやぎのイメージが定着しています。</li> <li>○ 自らの住む地域に誇りを持ち、観光のみならず効果が県民に理解されるとともに、自然環境や食文化など地域の観光資源が磨き上げられ、観光客に対する質の高い受入体制が整っています。</li> <li>○ 外国人や高齢者、障害者、子ども連れなど、だれでも訪れやすい観光地づくりが進んでいます。</li> <li>○ 東北地方の観光の起点としての機能が強化され、東北各県と一体となって観光を推進しています。</li> <li>○ 交流人口が拡大し、観光客入込数が2割程度増えています。</li> </ul>
<b>その実現のために行う施策の方向</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」など、催し物や行事を活用した積極的な誘客活動の推進</li> <li>◇ インターネット等広報媒体の活用による効果的な情報発信や団塊の世代など対象を絞った戦略的な集客活動の推進</li> <li>◇ 地域一体となった「もてなしの心」向上のための取組強化や、だれもが安全安心に観光できる環境づくりの促進</li> <li>◇ 観光施設及び案内板・標識の整備、バリアフリー・ユニバーサルデザインの普及推進</li> <li>◇ 温泉や食材、プロスポーツなど宮城独自の資源を生かした体験・滞在型観光の発掘・整備</li> <li>◇ 自然環境や伝統文化などを活用したグリーン・ツーリズム・ツーリズム及びエコツーリズム推進体制の整備・支援</li> <li>◇ 東北各県や関係機関との連携による観光ルートの設定など観光推進組織の強化</li> </ul>

事業費 (単位:千円)	年度	平成19年度 (決算(見込)額)	平成20年度 (決算(見込)額)	平成21年度 (決算(見込)額)
	県事業費	116,671		

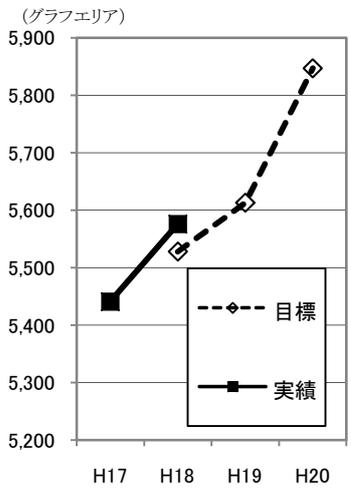
<b>施策に関する社会経済情勢等の状況</b> (全国・本県の状況、法令・条例・計画等策定の状況等について)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光産業は、大きな消費支出を生み出す総合的な基幹産業であり、国においては重要な施策の柱として観光を位置づけて「観光立国基本法」を制定し、本県でも「みやぎ観光戦略プラン」を策定して国・県をあげて観光の推進を図っている。</li> <li>・ 都市と農山漁村の交流が必要との回答が「都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査」(平成17年11月調査、内閣府政府広報室)で約8割を占めており、シニア世代や若年層を中心として、国民のニーズは大きい。</li> </ul>

県民意識調査結果								
調査対象年度 (調査名称)			平成19年度 (平成20年県民意識調査)		平成20年度 (平成21年県民意識調査)		平成21年度 (平成22年県民意識調査)	
この施策 に対する 重視度	重 要	重視の 割合	31.5%	69.6%				
	やや重要		38.1%					
	あまり重要ではない		13.1%					
	重要ではない		3.4%					
	わからない		13.8%					
調査回答者数			1,719					
この施策 に対する 満足度	満 足	満足の 割合	9.3%	45.5%				
	やや満足		36.2%					
	やや不満		22.0%					
	不満		5.7%					
	わからない		26.9%					
調査回答者数			1,708					
調査結果について			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重視度について、「重視の割合」が概ね7割となっており、この施策に対する県民の期待が高いことがうかがえる。</li> <li>・ 満足度については、「満足の割合」が5割を下回っており、今後も事業を維持し、満足度アップに努める必要がある。</li> <li>・ 満足度については、「わからない」という回答も多いことから、今以上に施策のPRに努める必要がある。</li> </ul>					

### 目標指標等の状況

※目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」  
 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」  
 C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」  
 N:「現況値が把握できず、判定できない」

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
1 観光客入込数(単位:万人)	指標測定年度	H17	H18	H19	H20
	目標値(a)	-	5,528	5,613	5,847
	実績値(b)	5,441	5,576	-	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	101%	-	-
	達成度	-	A	-	-

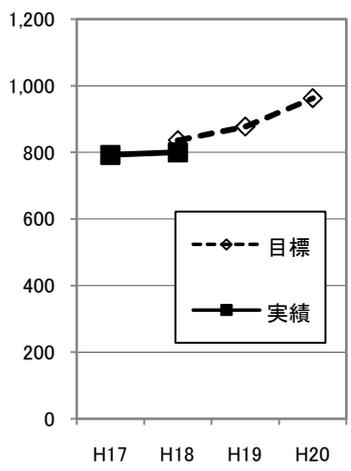


**目標値の設定根拠**  
 「みやぎ観光戦略プラン」において、平成22年の観光客入込数の目標値を6,000万人と設定しており、当該目標値を設定する際に分析した各年の予測値を施策評価に当たっての各年度の目標値とした。

**実績値の分析**  
 平成18年は、松島瑞巖寺五大堂で33年ぶりに御開帳が行われたことや、農産物直売所、日帰り入浴施設など新しい観光地点が増えたことにより、観光客入込数は増加し、過去10年で最高となり、堅調に推移していると言える。

**全国平均値や近隣他県等との比較**  
 平成18年度の観光客入込数の対前年伸率は、2.5%の増となっており、全国平均の1.0%増を上回っている。  
 (全国平均値は、平成20年4月実施の福井県調査結果の全集計値に基づく。)

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
2 宿泊観光客数(単位:万人)	指標測定年度	H17	H18	H19	H20
	目標値(a)	-	836	877	962
	実績値(b)	792	800	-	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	96%	-	-
	達成度	-	B	-	-

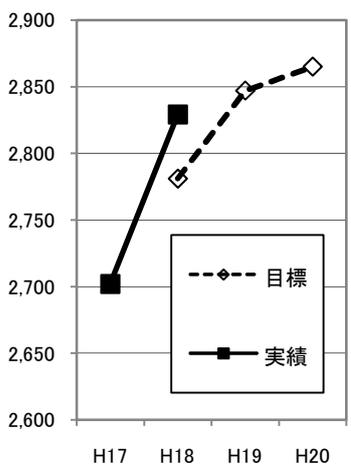


**目標値の設定根拠**  
 「みやぎ観光戦略プラン」において、平成22年の宿泊観光客数の目標値を1,000万人と設定しており、当該目標値を設定する際に分析した各年の予測値を施策評価に当たっての各年度の目標値とした。

**実績値の分析**  
 平成18年の宿泊観光客数は、仙台市内におけるホテルの新規開業等の影響で全体として増加しているものの、温泉地域で減少している影響で、目標を下回る増加となった。

**全国平均値や近隣他県等との比較**  
 該当なし。

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
3 都市と農村の交流人口(単位:万人)	指標測定年度	H17	H18	H19	H20
	目標値(a)	-	2,781	2,847	2,865
	実績値(b)	2,702	2,829	-	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	102%	-	-
	達成度	-	A	-	-



**目標値の設定根拠**  
 平成22年目標値を4年間であん分

**実績値の分析**  
 平成17年の実績値が2,702万人、平成18年の実績値が2,829人となっており、平成19年はデスティネーションキャンペーンのプレキャンペーンが実施されたこともあり、着実な伸びが期待される。

**全国平均値や近隣他県等との比較**  
 有効な指標が設定できず、農家民宿や公的宿泊施設を抽出した定点観測になっているため、比較は困難。

施策評価(総括)

施策の成果(進捗状況)

評価

評価の理由

・目標指標等、県民意識調査結果、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたか(「目標とする宮城の姿」に近づいているか)。

概ね順調

・目標指標の「観光客入込数」及び「都市と農村の交流人口」については、いずれも年度の目標値を上回っており、目標達成に向けて順調に推移していると解される。  
 ・目標指標のうち「宿泊観光客数」については、年度の目標値を下回ったものの増加傾向にあり、方向としては目標達成に向かっていると見える。  
 ・みやぎグリーンツーリズム推進協議会の設立や「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」などを契機に、グリーン・ツーリズムと観光行政との連携が進んできている。  
 ・施策の目標である「交流人口が拡大し、観光客入込数が2割程度増えています」に向かっており、施策の進捗状況は概ね順調と判断する。

施策の課題等と対応方針

①事業構成について

事業構成の方向性

方向性の理由

・施策評価の結果、県民意識調査結果、社会経済情勢及び事業の分析結果(必要性・有効性・効率性)から見て、施策の目的を達成するために必要な事業が設定されているか。事業構成を見直す必要はないか。

現在のまま継続

・県民意識調査結果では、全国向けの大型観光キャンペーンなどの催事等を活用した積極的な観光客誘致や「もてなしの心」向上のための取組強化について、優先的に取り組むべきとする回答が多いことから、継続して事業を実施すべきである。  
 ・都市住民のグリーン・ツーリズムに対する需要が高まっており、事業を継続する必要がある。  
 ・デスティネーションキャンペーンを機会とした観光との連携強化などグリーンツーリズムに関する社会情勢の変化に伴い、新たな振興施策を展開するため、二事業を一つに統合して効率的かつ一体的に進めることとする。

②施策を推進する上での課題等

※施策が直面する課題や改善が必要な事項等(①の事業構成に関する事項を除く。)

・平成20年度は「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」実施年度となることから、これまで以上に観光情報の提供等、PRの拡充による観光客の誘致を図るとともに、ハード面・ソフト面の両面で、受入態勢を充実させ、同キャンペーンを成功に導く必要がある。  
 ・「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」終了後も、引き続き観光客誘致に取り組める体制づくりが必要である。  
 ・農作業体験などがボランティア的なものとなっており、今後の活動継続に課題がある。

③次年度の対応方針

※①及び②への対応方針

・県と市町村、各種関係団体、民間事業者が一体となって観光客誘致に取り組めるよう、それぞれの役割分担と連携強化策について再検討する。  
 ・近年、減少を続ける農業所得の確保対策という面も含め、グリーン・ツーリズムのあり方を再検討する。

施策を構成する事業の状況

(事業分析シートより)

事業の状況						事業の分析結果			次年度の方向性	
番号	名称 (担当部局・課室名)	県事業費 (決算見込、 単位:千円)	活動の状況 (活動指標)		成果の状況 (成果指標)		①必要性	②有効性		③効率性
1	仙台・宮城デスティネーションキャンペーン推進事業 経済商工観光部・観光課	26,500	事業提案件数(件)	898件	観光客入込数	55,758千人	妥当	成果があった	効率的	拡充
2	首都圏ラジオ広報事業 総務部・広報課	26,974	放送回数(回)	51回	観光客入込数(千人)	55,758千人	概ね妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	維持
3-1	外国人観光客誘致促進事業 経済商工観光部・観光課	3,909	-	-	外国人観光客宿泊者数(中国・韓国・台湾)(人)	59,843人	妥当	成果があった	概ね効率的	維持
3-2	観光客誘致ステップアップ事業 経済商工観光部・観光課	1,891	-	-	外国人観光客宿泊者数(香港)(人)	13,418人	妥当	成果があった	概ね効率的	維持
4	みやぎの観光イメージアップ事業 経済商工観光部・観光課	1,317	説明会等の開催件数(件)	6件	観光客入込数(千人)	55,758千人	妥当	成果があった	効率的	維持
5	秋の行楽 みやぎ路誘客大作戦 ～秋色満載みやぎ・やまがたの観光～ 経済商工観光部・観光課	非予算的手法	案内所利用者数(人)	2,062人	観光客入込数(千人)	55,758千人	妥当	成果があった	-	維持
6	みやぎ観光ホスピタリティ向上推進事業 経済商工観光部・観光課	200	みやぎ観光コンシェルジュ委嘱者数(人)	21人	観光客入込数(千人)	55,758千人	妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	維持

7	みやぎ「観光ノススメ」推進事業 経済商工観光部・観光課	191	配付部数(部)	0部	観光に関する授業・勉強会の実施回数(回)	0回	概ね妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	維持
8	仙台・宮城デスティネーションキャンペーン受入施設整備事業 経済商工観光部・観光課	26,514	整備箇所数(箇所)	1箇所	観光客入込数(千人)	55,758千人	妥当	成果があった	効率的	維持
9	広域観光ルート(観光レンピ)活用事業 経済商工観光部・観光課	696	パンフレット・マスコミ等での掲載・放送件数(件)	12件	観光客入込数(千人)	55,758千人	妥当	成果があった	効率的	拡充
10	地域産業振興事業(再掲) 経済商工観光部・富県宮城推進室	22,844	—	—	—	—	妥当	成果があった	概ね効率的	維持
11	グリーン・ツーリズム推進活動事業 農林水産部・農村振興課	1,215	研修会開催数(回)	6	都市と農村の交流人口(万人)	2,829万人	妥当	成果があった	効率的	統合・廃止
12	グリーン・ツーリズム促進支援事業 農林水産部・農村振興課	4,420	アドバイザー派遣件数(回)	22	都市と農村の交流人口(万人)	2,829万人	妥当	成果があった	効率的	拡充
事業費合計		116,671								